

採材検討会（広葉樹）の概要

津軽森林管理署

人工林の間伐等に伴い生産される中小径木を主体とした広葉樹材を有効に活用し、地域材の利用拡大と地場産業の振興を図るため、素材生産現場での採材技術の向上を目的とした採材検討会を下記のとおり実施しました。

記

1. 日 時 平成30年11月8日(木) 10時 ~ 11時30分
2. 場 所 弘前市内 株式会社 ランバーテック工業
3. 参集者 国：11人、民17人（うち森組3人、連合会3人）
4. 概 要

(1) 署長あいさつに続き、青森県森林組合連合会より、土場に搬入された丸太を見ながら採材方法のポイントについて説明がありました。

合板用・製材用とも、末口径22cm以上で曲がりの矢高が20%以内であれば、問題なく利用出来る。

桂剥きの最大の欠点は、入り皮なので、可能な限りその部分を外して採材して欲しい。

死節の箇所も外して採材して欲しい、生節は可能な限りチェーンソーでえぐるような感覚でならして欲しい との話しがされました。



ランバーテック工業



署長あいさつ



採材のポイント説明



矢高の確認

(2) ランバーテック工業社長 奥山氏から、会社概要の説明がありました。
製材工場のように規格品を扱っているのではなく、ロータリーで薄く桂剥きにして、お客さんの要望聞きニーズに合わせた製品を作っている。イス、机、ピアノの天板など様々な製品に使う材料を納品している とのこと
その後、2班に分かれて、各工程の説明を受けながら視察を行いました。



奥山社長から会社概要説明



視察① (丸太煮沸)



視察② (丸太の剥皮)



視察③ (利用する長さに裁断)



視察④ (ロータリーで桂剥き)



視察⑤ (節・入皮での不良品)

(3) 節、入皮などにより、桂剥きをしたときの歩留まりが違ってくるので、利用する長さ(採材)を判断することが重要。



視察⑥（裁断の様子）



視察⑦（乾燥機から出てくる製品）

(4) 桂剥きしたものを、無駄なくどのくらいの巾で裁断するか、瞬時の判断でよどみなく裁断していく熟練の技。
乾燥したものの状態を見て、どちらを表として使うで、製品としての価値が高まる。



視察⑧（用途の巾に合わせ接着）



視察⑨（完成品）



視察⑩（用途別に仕分け）



視察⑪（出荷）

(5) まとめ
工場での加工の様子を視察することにより、製品として無駄なく使うため、あるいは、丸太としていかに付加価値をつけるかは、現場での採材が決め手となることを認識することが出来た検討会となりました。